

新梢伸長抑制剤によるブドウの栽培管理の省力化

ブドウの短梢せん定^{しょう}栽培では、新梢の摘心作業に多くの労力を要する。そこで、植物生長調節剤であるメピコートクロリド液剤の開花前散布を検討したところ副梢^{ふしやう}が短くなり、摘心作業時間が20%減少し、着粒数がやや増加した。

内容

11年生「シャインマスカット」樹に、開花前（2018年5月17日、展葉9～10枚期）又は硬核期前（同6月25日、満開27日後）にメピコートクロリド液剤1000倍希釈液を散布（100ℓ/10a）し、無散布と比較した。なお、副梢は棚上のみ各1葉残した。

摘心した副梢の長さは、6月13日では無散布区に対して開花前区は50%以上短くなったが、7月26日には処理区間で有意な差はなかった（図1）。

10a当たりの総摘心作業時間は、無散布区の約65時間に対して開花前区は13時間短くなったが、硬核期前区に差はなかった（図2）。

収穫時の果実品質では、無散布区と比べて果粒重は硬核期前区がやや小さくなった。また、着粒

数は開花前区がやや多かったが、その他の品質に明らかな差はなかった（表）。

以上のように、メピコートクロリド液剤の開花前散布で摘心作業の省力化が可能だった。

普及上の注意事項

「シャインマスカット」では展葉7～11枚時に1000～2000倍希釈（100～150ℓ/10a）及び（又は）満開10～40日後に500倍希釈（150ℓ）、1000倍希釈（300ℓ）で使用できる。品種により希釈倍数、使用時期が異なり留意する。

*短梢せん定：前年の新梢基部1、2芽を残して切り戻し、新梢を発生させるせん定法

**副梢：新梢から発生したわき芽

水田 泰徳（農産園芸部）

（問い合わせ先 電話：0790-47-2424）

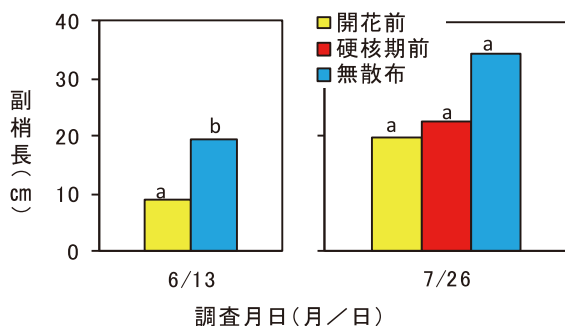


図1 摘心した副梢の平均長

棒上の異符号間ではTukey-Kramerの多重検定により5%水準で有意差あり

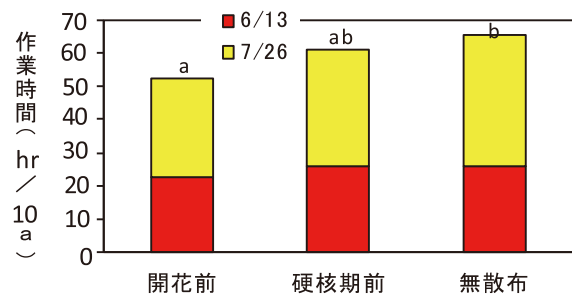


図2 メピコートクロリド散布と摘心作業時間

棒上の異符号間ではTukey-Kramerの多重検定により5%水準で有意差あり

表 メピコートクロリド散布と果実品質

試験区	果房重 (g)	果粒重 (g)	着粒数 (/房)	果皮色 (カラーチャート ²)	糖度 (Brix)	酸含量 (%)	縮果症 (粒/房)	房じまり ^y
開花前	565.7 a	12.9 ab	44.2 a	2.9 a	20.4 a	0.21 a	0.3 a	0.7 a
硬核期前	509.1 a	12.1 b	43.0 ab	2.9 a	20.3 a	0.23 a	0.1 a	0.4 a
無散布	591.2 a	14.5 a	40.7 b	3.2 a	21.2 a	0.22 a	0.1 a	1.4 a

²シャインマスカット用(山梨県総合理工学研究機構)による、^y良:0～不良:3、^xTukey-Kramerの多重検定により異符号間に5%水準で有意差あり